

千葉県セーリング連盟の沿革

	千葉県ヨット連盟創立。千葉県ゆかりの大学ヨット部出身により設立。
昭和24年	日本ヨット協会に加盟。 会長：石津四郎（石津昭三の父）。理事長：斉藤明（日大OB）。 理事：石津昭三（中央大OB）。鶴飼恒（千葉大OB）黒崎（立教大OB）
昭和25年	千葉県体育協会に加盟
昭和26年	館山で第1回館山湾ヨット選手権大会が開催される。 ：館山で合宿する東都大学ヨット部が主催。千葉県オープンの前身大会となる。
昭和27年	宮城での国体で一般男子A優勝。
昭和30年	館山で全日本学生ヨット選手権大会が開催。
昭和31年	関東ヨット協会が設立。千葉県支部として加盟。 千葉県支部に館山市ヨット協会と千葉市ヨット協会が設立。
昭和33年	琵琶湖での第13回国体に安房水産高校が出場し、千葉県は以降全種目出場。
昭和35年	再び館山で全日本学生ヨット選手権大会が開催。参加16校。 2代目会長に川名正義が就任。理事長の斉藤明は日本ヨット協会理事に。
昭和35年	千葉県連所属の穂積八州男（東大OB）がローマオリンピックに出場。 鹿児島での国体で皇后杯初優勝。一般女子A優勝。 役員改選。会長：川名正義。顧問：石津四郎。副会長：斉藤明。理事長：吉原章雅 理事：白幡静雄。清川彰。石津昭三。川名勘之助、要藤寛。
昭和36年	釜石での国体で天皇杯初優勝。皇后杯連覇。実業団スナイプ、一般女子A優勝。 館山で第11回館山湾ヨット選手権大会が開催。 日大、法政、中央、立教、東大、早大と安房水産高校の7校が参加。 東京オリンピックが江の島で開催。
昭和39年	新潟国体で天皇杯2位。高校スナイプ優勝。高校フィン2位。一般男子Bフィン3位。
昭和44年	千葉市の海洋公民館こじまと併設のヨットハーバーが埋め立てにより閉鎖。
昭和46年	千葉大学ヨット部が関東3部から1部に昇進。全日本インカレで6位に入賞。
昭和48年	館山で千葉国体「若潮国体」を開催。天皇杯2回目の優勝。皇后杯2位。 一般男子、少男スナイプ優勝。一般女子2位。一般男子Bフィン、少男フィン3位。
昭和49年	千葉県オープンヨット選手権大会が始まる。
昭和50年	千葉県実業団選手権大会が始まる。
昭和52年	吉原理事長は日本ヨット協会の理事に就任。県連理事長は千葉滋胤に。 青森国体で皇后杯3位。一般男子スナイプ優勝。成年女子スナイプ2位。
昭和53年	栃木国体ヨット競技は千葉市で開催することが決定。 安房水産高校、勝浦高校、銚子水産高校に続いて千葉市の磯辺高校ヨット部が創部。
昭和55年	森田芳樹が理事長に就任。 千葉市での国体で天皇杯、皇后杯ともに2位。少年女子優勝。
昭和56年	小川勝が理事長に就任。
昭和57年	稲毛ヨットハーバーが開設。県連活動の本拠地が館山から千葉に移行。 千葉県オープンはじめの普及レースやヨット教室が始まる。
昭和58年	県連組織の改革。12委員会制から4部16委員会制に。 東京若洲での国体で天皇杯3位、皇后杯2位。成年女子、少年男子S級優勝。
昭和59年	川名会長から松戸節三会長に。 兵庫県芦屋での国体で皇后杯3位。少女FJ3位。 スナイプ級全日本を開催。
昭和60年	山中湖でのFJ級全日本で磯辺高校が優勝。 鳥取国体で成年男子スナイプ優勝。
昭和61年	FJ級全日本を開催。磯辺高校が優勝。 山梨国体で少年FJ優勝。少女FJ2位。
昭和62年	鳥取境港でのFJワールドで勝浦高校が世界チャンピオンに。 沖縄国体で皇后杯2位。少年女子優勝。
昭和63年	国体2巡目最初の京都宮津での国体で天皇杯3位、皇后杯2位。成男、成女S級2位。 北海道江差でのFJ全日本で磯辺高校優勝（3年連続4回目）

<p>吉原副会長が日本ヨット協会の理事長に就任。 FJ級全日本（サンウエーブカップ）を開催。磯辺高校が優勝。</p> <p>平成元年：オランダでのFJワールドで磯辺高校女子が2位。 スナイプ級全日本を開催。 北海道江差での国体で天皇杯3位。少年男子FJ優勝。 石津顧問が日本ヨット協会の理事長に就任。</p>
<p>平成2年：'93 FJワールドを稲毛で開催することを受諾。 FJ級全日本を開催。磯辺高校が3位。 北京アジア大会で、OP級で関一人選手（磯辺1中）が金メダル獲得。</p>
<p>平成3年：イタリアでのFJワールドで磯辺高校OGが2位。</p>
<p>平成4年：山形での国体で天皇杯3回目の優勝。少男スナイプ優勝、少女FJ2位、成男SH3位。</p>
<p>平成5年：93 FJワールドを稲毛で開催。海外チーム7か国25チーム。 参加総数111チーム。優勝は磯辺OB。</p>
<p>平成6年：広島でのアジア大会で、磯辺OGが470級で出場し2位。 松戸会長、鶴飼顧問が日本ヨット協会功労賞を受賞。</p>
<p>平成7年：国府田由隆が理事長に就任。副理事長は堀江、前川、斉藤の3人。 特別小委員会として、女性、高齢者、身障者の3委員会を設置。 吉原福会長、石津顧問が日本ヨット協会功労賞を受賞。</p>
<p>平成8年：福島いわきでの国体で天皇杯2位。少年男女FJ級優勝。成男スナイプ3位。 広島呉での国体で天皇杯8位。 千葉福会長が日本ヨット協会功労賞を受賞。大浜亜顧問が県体協功労賞を受賞。</p>
<p>平成9年：オープンレースの成績計算ソフトを開発、販売。 会員登録は700名を越す。全国3位。 愛知蒲郡での国体で天皇杯8位。 アメリカでのFJワールドで磯辺高校OGが5位。女子1位。</p>
<p>平成10年：女性のためのヨット教室を開催。新都心ホテル宿泊。エステがセットで。 松戸節三会長が逝去。千葉県体育協会と合同で葬儀。 稲毛ヨットハーバーの管理者が海洋スポーツ協会から千葉市スポーツ振興財団に。 荒川昇が県連の新会長に就任。綿貫弘一が千葉市協会の新会長に就任。</p>
<p>平成11年：千葉県セーリング連盟に、千葉市セーリング協会に名称変更。 イタリアでのFJワールドで磯辺高校が出場。国府田由隆がIFJOより表彰。 熊本国体で成年女子スナイプ優勝。 千葉県セーリング連盟創立50周年記念式典をホテルマンハッタンで挙行。</p>
<p>平成15年：斉藤威が理事長に就任。 FJ級全日本を開催。</p>
<p>平成16年：アテネオリンピックで関一人選手（磯辺1中出身）が男子470級で銅メダル獲得。 渡良瀬遊水地で開催された埼玉国体を支援。</p>
<p>平成17年：全国高校総体を開催。</p>
<p>平成18年：前田彰一が日本セーリング連盟の専務理事に就任。</p>
<p>平成19年：第5回全国中学校ヨット選手権大会を開催。</p>
<p>平成20年：大分国体で天皇杯4度目の優勝。皇后杯3度目の優勝。少男、少女SS級優勝。</p>
<p>平成21年：国体リ八大会を開催。 聖籠町で開催された新潟国体を支援。 稲毛で「夢半島千葉国体」を開催。天皇杯、皇后杯とも1点差で2位。</p>
<p>平成22年：成女、少女SS級2位。成男470級3位。 栗原博理事がJSAF監事に就任。</p>
<p>平成23年：3.11東日本大震災で銚子マリーナは壊滅、稲毛ヨットハーバも大きく損傷。 福島県連に震災見舞いと支援物資を運ぶ。銚子の支援金を募集。 磯辺1中統合にあたってのヨット部存続について教育委員会と協議。継続となる。 第9回全国中学校ヨット選手権大会を開催。</p>

<p>平成24年：</p>	<p>千葉滋胤が会長に就任。大橋一之が理事長に就任。 ジュニアヨット国際親善レガッタを稲毛で開催。 東日本セーリングカップ（シーホッパー、SR級大会含む）を稲毛で開催。 荒川昇前会長が県体協功労賞を受賞。 第一回検見川ビーチフェスタが開催される。</p>
<p>平成25年：</p>	<p>荒川昇前会長が日本セーリング連盟の功労賞を受賞。 2020東京オリンピック・パラリンピックの招致が決定。 県民体育大会を復興なった銚子マリーナで開催。 東京国体で天皇杯5度目の優勝。皇后杯4度目の優勝。成女、少女SS級2位。 西宮の全日本インカレで明海大がS級優勝、470級4位、総合2位となる。 検見川の浜で第一回検見川ボードセーリングサマーカップを開催。</p>
<p>平成26年：</p>	<p>斉藤威副会長がJSAF監事に就任。 県民体育大会を大橋理事長の地元館山で開催。 綿貫弘一千葉市協会会長が県体協功労賞を受賞。 伊藤亮一が理事長に就任。</p>
<p>平成27年：</p>	<p>幕張海浜公園沖で「レドブル・エアレース（千葉会長）」が開催。観客12万人。 稲毛、江の島、蒲郡が東京5輪セーリング会場候補となる。江の島に決定。 千葉市の観光プロモーション事業「千葉あそび」にクルーザー体験会が参加。 和歌山国体で少女レーザーラジアルで市原の中学生が優勝。 メルボルンで開催された障害者世界選手権大会に磯辺高校OBが参加。 リオパラリンピックの2.4m級の出場国枠獲得ならず。</p>
<p>平成28年：</p>	<p>第14回全国中学校ヨット選手権を開催。 斉藤威副会長が日本体育協会公認スポーツ指導者表彰を受章。</p>